

## 再考：ロールシャッハ・テストの対処力不全指標

三輪真子 国立精神・神経医療研究センター 石井雄吉 明星大学心理学部

キーワード：ロールシャッハ・テスト, CDI, 社会的スキル

### 抄録

包括システムによるロールシャッハ・テスト（ロ・テスト）の対処力不全指標（CDI）における陽性基準を日本人にそのまま適応することには以前から疑問が呈せられていた。そこで、まず、CDIの構成変数と Kikuchi's Scale of Social Skills:18 items(Kiss-18) とでスピアマンの順位相関を求めた結果、両者間で有意な相関を認めなかった。次に CDI の陽性群と非陽性群とで Kiss-18 得点を U 検定・t 検定により比較した結果、両検定共に有意な差を認めなかった。さらに、Kiss-18 得点とロ・テスト全変数との相関を求めた結果、DQ+ (rs=-.430 : P<.05), FV(rs=-.411 : p<.05), Ls (rs=-.509 : p<.01) において比較的強い負の有意な相関を、Fr+rF において弱い負の有意な相関 (rs=-.365;p<.05) をそれぞれ認めた。

以上の結果から、日本人の場合、社会的スキルの乏しさから生じる対処不全は、非社会的で、自己を過度に省みため、脆弱な自己愛が挫折している状態であり、アメリカ人のデータに基づく CDI において、攻撃反応の欠落が含まれることに示される自己主張性の乏しさという問題とはかなり異なっていると考えられた。

### I 問題

包括システムによるロールシャッハ・テスト(以下、ロ・テスト)の解釈において重要な指標である対処力不全指標 Coping Deficit Index (以下、CDI)については、アメリカ人の陽性基準を日本人に当てはめた場合、その陽性率が30~40%にもなるため、日本人へのCDI適応には慎重さが求められている(小西,2001;藤岡,2004)。また、日本文化に見合った独自のCDIがある可能性も指摘されている(藤岡,2004)。さらに、アメリカにおいても、Meyer et al. (2011/2014)によるRorschach Performance Assessment Systemでは、妥当性に疑問がある等の理由により、このCDIに加えてDEPI, OBSも削除されている。

一方で、Exner (Exner,2003/2009)がCDI

陽性率の高い対象の一つとしてあげているアルコール依存症者においては、CDIとMMPIのSocial status(社会的地位)尺度とに負の有意な相関がみられ、さらに、CDIの下位基準とMMPIの下位尺度(e.g.,精神衰弱)ともいくつかの有意な相関が認められている(武山・村上,1998)。

そこで、本研究では、CDIの日本人に対する適応性の検討、さらには、日本人あるいは日本社会における対処力不全傾向に関連するロ・テスト変数群(CDI-Japanese version:以下,CDI-J)の探索を目的とした。

### II 方法

大学生89名に対し、対人関係を円滑に営むスキルとしての社会的スキルを測定するKikuchi's

Scale of Social Skills:18 items(以下, Kiss-18)への回答を求め、その中から口・テストへの協力が得られた31名(男性12名, 女性19名; 平均年齢19.8歳, SD=1.13)に対し, 口・テストを施行した。Kiss-18, 口・テストは2019年6月~2019年10月に実施した。その施行・コーディング・スコアリングの方法は, Exner(2003/2009), 藤岡(2013), に準拠した。

### 倫理的配慮

研究への参加は任意であり, 協力の有無により授業などで有利・不利は一切生じない旨を伝え, QRコード・URLが記載された調査依頼書を配付し, 学生が自主的にQRコードまたはURLよりアクセスし, 申し出ることにより研究協力の任意性を担保した。

## Ⅲ 結果の処理方法

- ① CDIと社会的スキルとの関連をみるために, CDIの構成変数とKiss-18とで相関(スピアマンの順位相関)を求め, また, CDI陽

性群と非陽性群とのKiss-18得点を比較した(U検定・t検定)。

- ② 社会的スキルとの関係から日本人に該当するCDI-Jを探索するために, Kiss-18得点と口・テスト全変数との相関(スピアマンの順位相関)を求めた。

なお, ①の検定においては, 口・テスト変数が一般的に正規分布を取らないため, U検定とt検定との2種類を採用した。

## Ⅳ 結果と考察

- ① CDIの構成変数とKiss-18得点とで相関分析を行った結果, 両者間で有意な相関を認めなかった(Table1)。次に, CDI陽性群(11名, 男性6名, 女性5名:35%)・非陽性群(20名, 男性6名, 女性14名:65%)とでKiss-18得点を比較した結果, U検定・t検定(シャピロ・ウィルク検定:CDI該当群 $p<.806$ , 非該当群 $p<.492$ )共に有意な差を認めなかった(Table2・3)。

つまり, kiss-18との関連でみる限り,

Table 1. Kiss-18とCDIを構成する変数とのスピアマンの順位相関結果

	EA	AdjD	COP	AG	WSumC	Afr
相関係数	-0.01	0.20	-0.19	-0.20	0.08	0.19
	Passive	Active	H	SumT	Isolate	Fd
相関係数	-0.02	0.00	0.01	-0.25	-0.30	-0.30

いずれもns

Table 2. CDI陽性群・非陽性群のKiss-18得点比較(U検定)

Mann-WhitneyのU	82
----------------	----

ns

Table 3. CDI陽性群・非陽性群のKiss-18得点比較(t検定)

陽性群		非陽性群		P
平均値	SD	平均値	SD	
57.45	10.00	53.15	6.85	ns

CDIは日本人の社会的スキルを適切に反映していないと考えられ、やはり日本人における対処不全傾向を査定する場合は、アメリカ人を対象として抽出されたものとは別な基準が必要と言うことになる。

## ②ロ・テスト全変数について、Kiss-18 得点と

の相関分析を行った結果、DQ+ (P<.05), FV(p<.05), Ls (p<.01) において比較的強い負の有意な相関を、Fr+rFにおいて弱い負の有意な相関 (p<.05) をそれぞれ認めた (Table4)。

Table 4. Kiss-18 と全変数とのスピアマンの順位相関結果

	DQ+	FV	Ls	Fr+rF
相関係数	-.430**	-.411**	-.509***	-.365**

\*\*\* < .01 \*\* < .05 \* < .10

Kiss-18 得点と負の相関を示した DQ+ は認知における比較的に高度な組織化、FV は自らの否定的な特徴への囚われ、Ls は非社交性、Fr+rF は自己愛的傾向を示す (Exner,2003/2009)。つまり、日本人の場合、社会的スキルの乏しさから生じる対処不全は、非社交的で、自己を過度に省みため、脆弱な自己愛が挫折している状態であり、アメリカ人のデータに基づく CDI において、攻撃反応の欠落が含まれることに示される自己主張性の乏しさという問題とはかなり異なっていることになる。

したがって、Table4 に示す Kiss-18 得点と負の有意な相関を示した指標群 (DQ+, FV, Ls, Fr+rF) は、日本人の対処不全傾向をある程度推測することができる CDI-J のプロトタイプになると期待される。ただし、Kiss-18 得点と負の有意な相関を示した DQ+ (比較的に高度な組織化) については、推察の範囲を超えないが、社会適応には対人関係の面倒な事態を単純化してやり過ごすというスキルも重要な要素であることを示唆しているのかも知れない。

ここにみたように、CDI をそのまま日本人に適用することは誤った解釈を誘導する虞があると言える。しかし、武山・村上 (1998) が CDI とアルコール依存との有意な関連を見だしているように、CDI は人格の何らかの脆弱性を示唆してい

る可能性は否定できない。

## 付記

本研究は、明星大学研究倫理委員会の承認を得て行った (2019 年 6 月 5 日付け承認)。

## 文献

- Exner, J. E. (2003). The Rorschach A Comprehensive System. Volume1: Basic Foundations and Principles of Interpretation. 4th Edition. 中村紀子・野田昌道 (訳) (2009). ロールシャッハ・テスト 包括システムの基礎と解釈の原理. 金剛出版.
- 藤岡淳子 (2004). 包括システムによるロールシャッハ臨床 —エクスナーの実践的応用—. 誠信書房.
- 小西宏幸 (2001). ロールシャッハ・テストの包括システムにおける L と CDI の関係. 心理臨床学研究, 19(2), 132-139.
- Meyer, G. J., Viglione, D. J., Mihura, J. L., Erard, R. E. & Erdberg, P. (2011) Rorschach Performance Assessment System: Administration, Coding, Interpretation, and Technical Manual. 高橋依子監訳 高橋真理子 (訳) (2014). ロールシャッハ・アセスメント・システム—実施、コーディング、解釈の手引き—.

金剛出版.  
武山雅志・村上雅子(1998). 包括システムにおけ

る対処力不全指標について. ロールシャッハ法研  
究, 2, 25-32.

---

Reconsideration : Coping Deficit Index of the Rorschach Test

MIWA, Mako  
National Center of Neurology and Psychiatry  
ISHII, Takayoshi  
School of Psychology, Meisei University

### abstract

It has been questioned whether the positive criteria of the Rorschach test CDI is appropriate for the Japanese population. Therefore, we first calculated Spearman's rank correlations between the constructs of the CDI and the 18 items of Kikuchi's Scale of Social Skills (Kiss-18), and found no significant correlation between the two. A comparison of the Kiss-18 scores between CDI-positive and non-positive groups was made by U-test and t-test, and both tests showed no significant difference. In addition, correlations between Kiss-18 scores and all variables of the Rorschach Test were determined, with relatively strong negative correlations in DQ+ ( $r_s = -.430$ ;  $p < .05$ ), FV ( $r_s = -.411$ ;  $p < .05$ ) and Ls ( $r_s = -.509$ ;  $p < .01$ ), and weak negative correlations in Fr+rF ( $r_s = -.365$ ;  $p < .05$ ) respectively.

These results suggest that in the Japanese population, coping deficits are resulting from a state of frustrated vulnerable narcissism, non-social, overly self-reflective, quite different from poor assertiveness shown in the CDI based on American data.

**Key Words :** Rorschach Test, CDI, Social Skills

---